

2014 四川省&青海省 高原花の旅 (7月12日～21日)

四姑娘山自然保護区管理局特別顧問の大川さんにご案内いただき、恒例のチベット高原花の旅は、「未訪の地を訪ねたい」という関根の要望で青海省のアムネマチン山(6,282m)の山麓まで車を走らせ花を楽しんだ。



xī mén cuò
希門措*

(注: 措はチベット語で湖、中国語では同じ音の漢字をあてた)



gān bǎo zàng zhài
甘堡藏寨

(文とスケッチ: 関根茂子)

新しい出会いを求めて、四川省・青海省の花の旅 写真と文: 河本義宣

私にとって、大川さんガイドの花の旅は今回で3回目である。訪問地の青海省は初めてである。これまでの四姑娘山や丹巴とは花も景色も違うのではと、期待に胸を膨らませ成都空港に降り立った。大川さん、通訳の李さんとは2年ぶりの再会である。

市内に向かう車窓から見る景色は空に向かっていく(高層住宅の林立)。のっけから景色が違うのである。中国の発展が急テンポで進んでいることを実感した。今回の旅は日本から、関根さん以下7名、大川さん、運転手2名総勢10名の旅である。



成都市街

❖ 風景・地形編

旅3日目(7月14)から青海省入りした。訪れた地域の主たる住民はチベット族で、チベット仏教圏(多くがニンマ派)に当たり、チベット寺院やチベット仏教特有のタルチョ(青=空・白=風・赤=火・緑=水・黄=地を表す5色の四角い旗)やルンタ(風馬旗とも言い、風の馬が描かれ、仏法が風に乗って広がる祈禱旗で、同様5色の長い旗)が随所に見られた。

15日～18日の4日間はほとんど標高4,000m以上のところで過ごした。山容はなだらかで、一見200m～300m山が連なっており、その多くがヤクの放牧地である。その中で、観光地「年保玉則」の風景と雪を戴いたアムネマチン山(6,282m)は別格であった。

❖ 花編

最大の収穫は「白いケシ」に出会えたことである。青・黄・赤もあって、4色揃い踏みであった。色の濃い八重咲の青いケシにも出会えた。ケシを見つけるコツも覚えた。4,000mを超えたあたりから山側の斜面を観察していると、突然目に入ってくる。白いケシも仲間の一人がそうして、車窓から見つけたものである。

他では、今回特に多かったのがシオガマグクの仲間(赤・黄・白・ピンクで同じ色でも微妙に違う)で、10種前後、しそ科、きんぽうげ科トリカブトの仲間、ごまのはぐさ科イヌノフグリの仲間や、私には同定出来ない沢山の花を撮ることが出来ました。特に印象に残ったのは背丈20cm前後の黄色いキンロバイ(ばら科)が随所で群生していたことである。

❖ 宿・食事編

今回の旅の特色の1つが、宿は事前予約なく、現地に着いてから探すというものであった。その都度、大川さんの手を煩わせ、ご尽力いただいたことに、この場を借りてお礼申し上げます。全部の宿、菜館(食事処)に表示があった訳ではないが、日本でいうところの保健所の規則が掲示してあり、等級(A級、B級、C級)の表示がされていた。

私たちが泊まり、食事した所は、A、Bはなく全てCだったが、同じCでも「いろいろあり」だった。今回の食事で1番は何と言っても、「杭州小籠包」の看板を出している菜館であった。肉、ジャガイモ、キャベツ(?)をつつみこんだ包子がとても美味しく、都合3度の朝

食を撮り、二日に亘り昼食弁当用に別途注文した。もう1つは、宿併設のレストランで出た煮込んだ肉(?)の一皿で、今までの少し硬めの肉(ヤクや豚)に比べて何と柔らかく美味なることか。何の肉かと店員に問えば、「なす」のと返事。一同、驚きの声と同時にこの肉料理(!?)を一気に胃の腑に収めた。



ゴマノハグサ科-シオガマギク



ゴマノハグサ科-シオガマギク



ゴマノハグサ科-イヌノフグリ仲間



アムネマチン山 (6282 m)



ヤクの放牧



年保玉則の風景



青いケシ



白いケシ
(青いケシのアルビノ種)

★紙面の関係で掲載できない写真とスケッチを‘わりい’ HPフォトギャラリーに掲載しました。是非ご訪問をお待ちしています。